

令和5年度上半期の傷病鳥獣保護実績

長野真也

(横浜市立野毛山動物園)

横浜市内の動物園では神奈川県からの委託を受け、県内の傷病鳥獣の保護活動を行っている。しかしながら保護個体の死亡率が高い現状があり、今年度は9月までに47%の個体が死亡した。そこで死亡個体の傾向を「保護原因・年齢・保護期間」に注目して調べた。保護原因別では巣からの落下や衝突によって保護されてきた個体の死亡率が高く、年齢別では巣内ビナと成鳥の死亡率が高かった。また死亡した個体は、保護後一週間以内に死亡していることが多いという傾向が見られた。